

第3群の座長をつとめて

毛利 駒 江

(金沢大学医学部附属病院)

医療の高度化に伴って看護業務範囲が拡大され、業務量も増大してきている中で、専門職と言えるような“質の高い看護”を提供するためにも、患者の生命の安全を守ることの責任は大きい。

そのためには、現状を一つ一つていねいに見直しながら看護婦でなくてはならない業務はどれなのか、どの部分が代行者への移行によって行われてもよいところなのか……をはっきりさせていく必要がある。より個別的で質の高い看護…を提供していくためにも看護補助業務の除外はさけることの出来ない当然の問題である。

この際、看護婦は患者サービスにおけるリーダーとしての能力を発揮したいと思う。

これ等の研究結果がその時に活用され得る価値を持つよう努力の積み重ねが大切と思う。

申し送りを看護ケアにどう活用するか…は3交代勤務体制下で責任ある患者ケアを継続させるために、真剣に考え続けなければならない。

まとめ…で述べられている、送り手が問題視したことはほとんど受手に伝わり継続されている…ことや、リーダーが問題意識化したことについては何等かの型で解決策を見出している…などから、それぞれの看護婦が何を申し送るかによって“看護ケアの質”が大きく左右されることを認識しなければならない。刻々と変わる患者の状態や検査結果を引き継ぐのみではなく、むしろそれ等の状況を看護者としてどのようにとらえ患者ケアに結びつけたのかについて、誰もが納得の出来る裏付けに基づいた申し送り…の継続を行ってこそ

活用出来るものと言えるのではないだろうか。

病棟管理上において転室時の問題は多々あるが中でもほとんどの場合、患者の意志が反映出来ないという現状は悩み多いところである。

特に高度医療化してしまった現在、急に病院の設備が変えられることは少なく、治療上からも複室から個室に変わらざるを得ない条件が多くなって来るように考えられる。この時の経済的負担や病状の悪化等に関する患者や家族の精神的負担ははかり知れない。今後は医療従事者と患者、家族との関係が一方通行的なものではなく、「共同して疾病にとり組む」という双方向性の関係となるよう、看護者に課せられるコーディネーターとしての役割も大きくなっていくことだろう。

時間が経つにつれて新しい環境に慣れてくる者が多いという結果が、そうならざるを得ないという点から生じることのないよう、看護者としての役割を果たさなくてはならない。

学習意欲には学習環境が大きく影響することは誰でもよく知るところである。

今回特に定時制看護学生の実習開始後の学習意欲低下が著明であることを知り、おどろいている。特に臨床実習による変化は、患者に対応する看護学生の状態としては大きな問題であり、指導者の一員として不安を感じたのも正直なところである。

私達は、物理的学習環境の提供のみならず、人的学習環境の提供者の1人1人としてその責任を果たさなければ、専門職…というべき基礎教育の充実にもつながっていかないことを再認識した思いである。